

「もしも」を 想像する

繰り返しとなりますが、大規模な災害が発生した場合、「公助」だけでは限界があり、「自助」「共助」が重要な鍵となります。

「共助」でもご近所や地域のつながりといった「互近助」^{ごきんじょ}が多くの命を守ることに結びつきます。災害時に円滑に助け合いができるように、日頃から近所付き合いを大切に、助け合える関係を築いたり、避難行動が困難な方などを把握し、支援方法を考えたりしておくことが大事です。

自主防災組織では、その地域での被害を想定して下記のような訓練を行っています。地域の自主防災組織の活動に積極的に参加し、地域ぐるみの防災意識の向上に努めましょう。

「地域だからできること、地域がやらなければいけないことがある」と一人一人が意識することが大切です。



初期消火訓練

大規模災害発生時に、最も被害を拡大させるものの一つとして火災があります。火災の拡大を防ぐために、万が一火が出た場合を想定して、家庭・地域で初期の段階で完全に消し止める技能を習得することが大切です。

訓練では、消防署や地元消防団と協力し、多くの住民の方が実際に消火栓や消火器を使用した消火活動を体験し、初期消火の方法や機材の使用方法を習得します。



災害時避難訓練

地震などによる建物の倒壊・損傷、洪水、大規模な火災により地域住民の生命・身体に危険が及ぶ場合は、ただちに安全な場所への避難が必要になります。また、火災、地震、水害などの災害の種類によって避難方法が異なるので、ハザードマップを活用し、日頃から避難経路や避難場所を確認しておくことも大切です。

また、避難に時間を要する高齢者などといった避難行動要支援者の状況を把握し、訓練などを通して地域での避難支援方法を考えておきましょう。

参加者の声

過去に大きな災害を経験した人が少なくなっていることに加え、土砂災害などの災害リスクが少ない土地なので、区民の防災意識が低いことが課題だと思っています。その中で、子どもからお年寄りまで幅広く参加できるよう、さまざまな訓練内容を取り入れる工夫をし、訓練を通して防災意識の向上を図ったり、顔を合わせる機会を作り、地域コミュニティ力の向上につなげられるように取り組んでいます。

防災に対する意識が向上しました。大それたものではなくても、ちょっとしたものから備えを実践したいです。



災害発生時には地域みんなの協力が大切だと感じました。日頃から、コミュニケーションをとれるようにしたいと思います。



誰でも参加できるくらい分かりやすく避難について学べました。避難に関して、事前準備の大切さを感じました。



避難所までの避難経路を改めて確認できました。徒歩だと避難所まで思ったより時間がかかり、事前に確認しておくことが大事だと思いました。

